考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）　　3-1 （検査員）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。　　年　月　日（※完成検査年月日）

考査項目	細別	該当数	評価数	a	b	c	d	e
2.施工状況	Ⅰ.施工管理			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
	評価値 ％			［評価対象項目］ □ □ 契約書第１９条第１項第１号から５号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。 □ □ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっていることが確認できる。 □ □ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。 □ □ 現場条件又は計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更計画書を提出していることが確認できる。 □ □ 工事材料の品質に影響がないよう工事材料を保管していることが確認できる。 □ □ 立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。 □ □ 建設副産物の再利用への取り組みを行っていることが確認できる。 □ □ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で的確に整備していることが確認できる。 □ □ 下請けに対する引き取り(完成)検査を書面で実施していることが確認できる。 □ □ 品質証明体制が確立され、品質証明員による関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。 □ □ 工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。 □ □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ □ その他（　　） ●判断基準 該当値が90%以上・・・・・・a 該当値が80%～90%未満・・・b 該当値が80%未満・・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。 ② 該当数を母数として、比率(%)で評価する。 ③ 評価値(　　%)=(　　)評価数/(　　)該当数 ④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はＣ評価とする。		□ 施工管理について、監督員が文書による改善指示を行った。	□ 施工管理について、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。

考査項目別運用表（土木工事）

1．契約番号 ： 24-○○○
2．工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-2 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅰ．出来形	土木工事	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね５０%以内で、下記の「評定対象項目」の４項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、ばらつきが規格値の概ね５０%以内で、下記の「評定対象項目」の３項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、ばらつきが規格値の概ね８０%以内で、下記の「評定対象項目」の３項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、ばらつきが規格値の概ね８０%以内で、下記の「評定対象項目」の２項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、ａ～ｂ’に該当しない。	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い、改善された。	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	評価値	※ ばらつきの判断は別図参照 ［評価対象項目］ □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 □ 写真管理基準の管理項目を満足している。 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる □ その他（理由： ）				①出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ②出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。		
	機械設備工事	該当数 / 評価数	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	Cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
	※上記欄によらず、当該欄で評価 評価値 %		［評価対象項目］ □ □ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。 □ □ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内にあり、出来形の確認ができる。 □ □ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足し、出来形の確認ができる。 □ □ 設計図書に定められていない出来形管理項目について、監督員と協議のうえで管理していることが確認できる。 □ □ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 □ □ 塗装管理基準の塗膜厚管理が適切にまとめられ、出来形の確認ができる。 □ □ 溶接管理基準の出来形管理が適切にまとめられ、出来形の確認ができる。 □ □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ □ 設計図書に定められている予備品に不足がないことが確認できる。 □ □ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の老化状況及び回復状況が図表等に記録していることが確認できる。 □ □ その他（理由： ）					□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い、改善された。	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

●判断基準

該当値が90%以上・・・・・・・・・a
該当値が80%以上90%未満・・・・a’
該当値が70%以上80%未満・・・・b
該当値が60%以上70%未満・・・・b’
該当値が60%未満・・・・・・・・c

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-3 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	該当数	評価数	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	電気設備工事			優れている	bより優れている	やや優れている	Cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
Ⅰ.出来形	※上記欄によらず、当該欄で評価 評価値 %			［評価対象項目］ □ □ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。 □ □ 機器等の測定（試験）結果が、その都度、管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。 □ □ 写真管理基準の管理項目を満足している。 □ □ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 □ □ 設計図書に定められていない出来形管理項目について、監督員と協議のうえで管理していることが確認できる。 □ □ 設備全般にわたり、形状、寸法の実測値が許容範囲内にあることが確認ができる。 □ □ 設備の据付け、固定方法が、設計図書又は承諾図書のとおり施工していることが確認できる。 □ □ 配管及び配線が設計図書又は承諾図書の通り敷設していることが確認できる。 □ □ 行先などを表示した名札が、ケーブルなどに分り易く堅固に取り付けている。 □ □ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ □ その他（理由： ）				□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い、改善された。	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

●判断基準

該当値が90%以上・・・・・・・・・a
該当値が80%以上90%未満・・・・a'
該当値が70%以上80%未満・・・・b
該当値が60%以上70%未満・・・・b'
該当値が60%未満・・・・・・・・c

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-4 （検査員）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート構造物工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・ｗ／ｃ・最大骨材粒径・塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められて条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中ｺﾝｸﾘｰﾄ等を含む）
□	□	コンクリート圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□	□	コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	コンクリート打設までに、錆び、泥、油等有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）　　3-5 （検査員）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。　　年　月　日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	土工事（切土，盛土，築堤等工事）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。
□	□	段切りを、設計図書に基づき行っていることが確認できる。
□	□	置換えのための堀削を行うにあたり、堀削面以下を乱さないように施工していることが確認できる。
□	□	締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。
□	□	芝付け及び種子吹付を設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	土羽土の土質が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	ＣＢＲ試験等の品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。
□	□	法面に有害な亀裂がない。
□	□	伐開除根作業が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	その他（　　）

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a'	b	b
７５%以上９０%未満	a'	b	b'	b'
６０%以上７５%未満	b	b'	c	c
６０%未満	b'	c	c	c

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(　　%)=(　　)評価数/(　　)該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-6 （検査員）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	護岸・根固・水制工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ. 品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
□	□	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。
□	□	緑化ブロック、石積（張）、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸い出しが無いよう行っていることが確認できる。
□	□	石積(張)工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。
□	□	遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	指定材料の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	基礎工において、掘り過ぎがなく施工していることが確認できる。
□	□	コンクリートブロック等を、損傷なく設置していることが確認できる。
□	□	施工にあたって、床堀箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。
□	□	埋め戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	有害なクラックがない
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a’	b	b
７５％以上９０％未満	a’	b	b’	b’
６０％以上７５％未満	b	b’	c	c
６０％未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3－7 （検査員）

年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	鋼橋工事（RC床版工事はｺﾝｸﾘｰﾄ構造物に準ずる） 評価値 ％ 判断基準ﾗﾝｸ	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【工場製作関係】
□	□	鋼材の種別を、品質を証明する書類又は現物により照合していることが確認できる。
□	□	溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。
□	□	孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。
□	□	欠陥部の発生が見られないことが確認できる。
□	□	塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
□	□	素地調整を行う場合、第１種ケレン後４時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。
□	□	塗料の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できる。
□	□	塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
□	□	その他（ ）
		【架設関係】
□	□	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。。
□	□	高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。
□	□	高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。
□	□	支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切り勾配がついていることが確認できる。
□	□	架設に当たって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。
□	□	架設に用いる仮設備及び架設用機材について、品質、性能が確保できる規模及び強度を有していることが確認できる。
□	□	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。
□	□	現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a’	b	b
７５％以上９０％未満	a’	b	b’	b’
６０％以上７５％未満	b	b’	c	c
６０％未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-8 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	砂防構造物工事 及び 地すべり防止工事 （集水井戸工事を含む） 評価値 % 判断基準ﾗﾝｸ	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【共通】
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度、ｗ／ｃ、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、湿度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）
□	□	コンクリートの圧縮強度を管理しており、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っている。
□	□	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋及び鋼材の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
□	□	その他（ ）
		【砂防構造物工事に適用】
□	□	コンクリート打設まで、錆び、泥、油等の有害物が、鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	施工基面を平滑に仕上げられていることが確認できる。
□	□	アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
□	□	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		【地すべり対策工事（抑止杭・集水井戸工事を含む）】
□	□	アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる
□	□	ライナープレートと地山との隙間が、少なくなるように施工していることが確認できる。
□	□	集・排水ボーリング工の方向及び角度が、適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-9 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	砂防構造物工事 及び 地すべり防止工事 （集水井戸工事を含む）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	
□	□	抑止杭に損傷及び補修痕が、無いことが確認できる。
□	□	抑止杭の打ち止め管理方法及び場所打ち杭の施工管理の方法が、整備されており、その記録を整理していることが確認できる。
□	□	抑止杭の偏心の管理が、実施されており、その記録を整理していることが確認できる。
□	□	溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	鉄線籠工等の詰石が、隙間の無いよう施工されており、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-１０ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	舗装工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【路床・路盤工関係】
□	□	設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。
□	□	路床及び路盤工のプルーフローリングを行っていることが確認できる。
□	□	路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	路盤の安定処理は、材料が均一になるよう施工していることが確認できる。
□	□	路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	路床盛土において、一層の仕上がり厚を２０㎝以下とし、各層ごとに締め固めて施工していることが確認でき
□	□	路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		【アスファルト舗装工関係】
□	□	アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。
□	□	舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。
□	□	舗設後の交通開放が、定められた管理で行っていることが確認できる。
□	□	舗装各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。
□	□	縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。
□	□	密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a'	b	b
７５％以上９０％未満	a'	b	b'	b'
６０％以上７５％未満	b	b'	c	c
６０％未満	b'	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-１１ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	舗装工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補

該当数	評価数	［評価対象項目］
Ⅱ. 品質		【コンクリート舗装工関係】
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており､コンクリートの品質(強度、ｗ／ｃ、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	舗装工の施工に先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	運搬時間､打設方法及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	材料が分離しないよう、コンクリートを敷き均していることが確認できる。
□	□	チェアー及びタイバーを、損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a’	b	b
７５％以上９０％未満	a’	b	b’	b’
６０％以上７５％未満	b	b’	c	c
６０％未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。

③ 評価値（ %)=（)評価数/（)該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１２ （検査員）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

ヨ（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	法面工事・落石防止工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【共通】
□	□	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。（特に法枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係）
□	□	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう、締固めを十分行っていることが確認できる。
□	□	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		【種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工関係】
□	□	土壌試験の結果を施工に反映していることが確認できる。
□	□	ネット等の境界に隙間が生じていないことが確認できる。
□	□	ネット等が破損を生じていないことが確認できる。
□	□	吹付け厚さが均等であることが確認できる。
□	□	使用する材料の種類、品質、配合等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		【コンクリート又はモルタル吹付工関係】
□	□	使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	金網の重ね幅が、１０㎝以上確保されていることが確認できる。
□	□	金網が破損を生じていないことが確認できる。
□	□	吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。
□	□	吹付け厚さが均等であることが確認できる。
□	□	吹付け厚さに応じて二層以上に分割して施工していることが確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
□	□	法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。

③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１３ （検査員）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

ヨ（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	法面工事・落石防止工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【現場打法枠工関係（プレキャスト法枠工含む)】
□	□	使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	アンカーを設計図書の仕様通りの長さで施工していることが確認できる。
□	□	現場養生が、設計図書の仕様を満足するよう、実施されていることが確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	枠内に空隙がないことが確認できる。
□	□	層間にはく離がないことが確認できる。
□	□	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
□	□	その他（ ）
		【落石防護網・落石防護柵関係】
□	□	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。
□	□	使用する材料の種類、品質が証明書類で確認できる。
□	□	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
□	□	アンカーの施工や網の重ね合わせが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ワイヤーの施工が設計図書の仕様どおり緊張されていることが確認できる。
□	□	端部の処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	支柱の根入れ長が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(　　%)=(　　)評価数/(　　)該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）　　3-１４　（検査員）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。　　(完成検査年月日)

考査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	基礎工工事及び地盤改良工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※　ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善され	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
		【杭関係（コンクリート・鋼管・鋼管井筒、場所打ち、深礎等）】
□	□	杭に損傷及び補修痕がないことが確認できる。
□	□	既製杭の打止め管理の方法及び場所打ち杭の施工管理の方法等が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。
□	□	杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。
□	□	水平度、鉛直度等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。
□	□	場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に２ｍ以上挿入して施行していることが確認できる。
□	□	掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ライナープレートの組立にあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
□	□	裏込材注入の圧力等が施工記録により確認できる。
□	□	強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。
□	□	その他（　　）
		【地盤改良関係】
□	□	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認で
□	□	事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認で
□	□	施工個所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。
□	□	その他（　　）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a'	b	b
７５%以上９０%未満	a'	b	b'	b'
６０%以上７５%未満	b	b'	c	c
６０％未満	b'	c	c	c

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。

③ 評価値(　　%)=(　　)評価数/(　　)該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）　　3-１５　（検査員）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。　　（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート橋上部工事（ＰＣ及びＲＣを対象）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※　ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・ｗ／ｃ、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）
□	□	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリート打設までに錆び、泥、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	スペーサーの品質および個数が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。
□	□	PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	コンクリート圧縮強度の確認は、構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いることが確認できる。
□	□	有害なクラックがない。
□	□	その他（　　）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注　試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。

③ 評価値(　　%)=(　　)評価数/(　　)該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１６ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	塗装工事 評価値 ％ 判断基準ﾗﾝｸ	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
□	□	ケレンを入念に実施していることが確認できる。
□	□	天候状況の確認、気温及び湿度、風速等の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。
□	□	塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一状態にしてから使用していることが確認できる。
□	□	鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。
□	□	塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。
□	□	塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。
□	□	溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。
□	□	塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１７ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	トンネル工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており､コンクリートの品質(強度・ｗ／ｃ、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	施工条件や気象条件に適した運搬時間､打設方法及び締め固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	吹付けコンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	設計図書に定められた岩区分（支保工パターン含む）の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。
□	□	坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。
□	□	金網の継ぎ目を、１５ｃｍ（一目）以上重ね合わせて施工していることが確認できる。
□	□	吹付けコンクリートの施工にあたって、浮き石を除いた後に、吹付けコンクリートの一層の厚さが１５㎝以下で地山と密着するよう施工していることが確認できる。
□	□	吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、吹付け完了面を清掃したうえ、湿潤状態で施工していることが確認できる。
□	□	ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。
□	□	逆巻きの場合において、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が、同一線上で施工していないことが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１８ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	植栽工事 評価値 ％ 判断基準ﾗﾝｸ	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	活着が促されるよう管理していることが確認できる。
□	□	樹木などに損傷、はちくずれ等がないよう保護養生を行っていることが確認できる。
□	□	樹木等の生育に害のある害虫がいないことが確認できる。
□	□	施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。
□	□	肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。
□	□	植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。
□	□	添え木を、ぐらつきがないよう設置していることが確認できる。
□	□	樹名板を視認しやすい場所に据え付けていることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０％以下	80%以下	80%を超える	
９０％以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-１９ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	防護柵（網）・標識・区画線等設置工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。
□	□	防護柵等の床掘りの仕上げ面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。
□	□	防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。
□	□	防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響がないよう施工していることが確認できる。
□	□	基礎設置個所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。
□	□	防護柵の支柱の根入れ長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	ガードケーブルを支柱に取り付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。
□	□	ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。
□	□	区画線のペイント式（常温式）に使用するシンナーの使用量が、１０%以下であることが確認できる。
□	□	区画線の厚さが見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	区画線の施工にあたって、設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。
□	□	区画線の消去の場合、表示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。
□	□	プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。
□	□	区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２０ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	電線共同溝工事・管路工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
％

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。
□	□	管路の通過試験を行っており、試験結果から全箇所が導通していることが確認できる。
□	□	舗装におけるプラント出荷時、現場到着時、舗設時等の、アスファルト混合物の温度管理が記録されていることが確認できる。
□	□	特殊部の施工基面の支持力が、均等となるように、かつ不陸がないように仕上げていることが確認できる。
□	□	特殊部等の施工において、隣接する各ブロックに目違いによる段差及び蛇行等がないよう敷設していることが確認できる。
□	□	埋め戻しにおいて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	舗装の復旧等が適時行われ、路面の沈下や不陸がなく平坦性を確保していることが確認できる。
□	□	管沈及び埋設シートの設置及び土被りが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２１ （検査員）
年　　月　　日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	維持修繕工事（付属物工、橋脚補強、耐震補強、落橋防止等）	優れている	ｂより優れている	やや優れている	ｃより優れている	他の評価に該当しない	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。
□	□	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
□	□	監督員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□	□	施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を、勘案した提案等を行っていることが確認できる。
□	□	製品の吊り込み及び据付け時において、常に十分な注意を払い、施工していることが確認できる。
□	□	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから、施工していることが確認できる。
□	□	施工に用いる仮設備及び仮設用機材について、品質、性能が確保できる規模及び強度を有していることが確認できる。
□	□	既存施設に損傷なく工事が完了したことが確認できる。
□	□	理由：

●判断基準

※　該当項目が６項目以上・・・・・・・ａ
※　該当項目が５項目・・・・・・・・・ａ’
※　該当項目が４項目・・・・・・・・・ｂ
※　該当項目が３項目・・・・・・・・・ｂ’
※　該当項目が２項目以下・・・・・・・ｃ

注　記載の８項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜、項目を追加して評価するものとする。
　　ただし、評価対象項目は最大９項目とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２２ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	該当数	評価数	a	a’	b	b’	c	d	e
出来形及び出来ばえ	機械設備工事			優れている	ｂより優れている	やや優れている	ｃより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ．品質 評価値 ％ 判断基準ﾗﾝｸ				［評価対象項目］ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。 設備の機能及び性能が承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書としていることが確認できる。 機器の機能及び性能に係わる成績表が整理され、品質の確認ができる。 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。 小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。 設備の取扱説明書を工夫していることが確認ができる。 完成図書（取扱説明書）に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。 機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認ができる。 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう、工夫していることが確認できる。 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。 バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。 回転部や高温部等の危険個所に表示又は防護をしていることが確認できる。 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 その他（ ）				□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 ① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。 ② 該当数を母数として、比率(%)で評価する。 ③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数 ④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はＣ評価とする。 ●判断基準 ※ 評価値が９０%以上・・・・・・・・・ａ ※ 評価値が８０%以上９０%未満・・・・ａ’ ※ 評価値が７０%以上８０%未満・・・・ｂ ※ 評価値が６０%以上７０%未満・・・・ｂ’ ※ 評価値が６０%未満・・・・・・・・・ｃ	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２３ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	該当数	評価数	a	a’	b	b’	c	d	e
出来形及び出来ばえ	電気設備工事			優れている	ｂより優れている	やや優れている	ｃより優れている	他の評価に該当しない		
				［評価対象項目］						
Ⅱ．品質		□	□	製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施していることが確認できる。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
		□	□	材料・部品の品質照合の結果が品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図等の仕様を満足していることが確認できる。						
		□	□	機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。						
	評価値	□	□	操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。						
	%	□	□	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がないことが確認できる。						
	判断基準ﾗﾝｸ	□	□	設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		□	□	操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。						
		□	□	設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		□	□	現場条件によって機器（製品）の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。						
		□	□	設備全体についての取扱説明書を工夫し作成の（修繕（改造・更新を含む）の場合は、修正または更新）していることが確認できる。						
		□	□	完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。						
		□	□	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。						
		□	□	その他（ ）						

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当数を母数として、比率(%)で評価する。

③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はC評価とする。

●判断基準

※ 評価値が９０%以上・・・・・・・・・a

※ 評価値が８０%以上９０%未満・・・・a’

※ 評価値が７０%以上８０%未満・・・・b

※ 評価値が６０%以上７０%未満・・・・b’

※ 評価値が６０%未満・・・・・・・・・c

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２４ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	該当数	評価数	a	a’	b	b’	c	d	e
出来形及び出来ばえ	電気通信設備工事・受変電設備工事			優れている	ｂより優れている	やや優れている	ｃより優れている	他の評価に該当しない		
				［評価対象項目］					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
Ⅱ．品質		□	□	設計図書に定められている品質管理を、実施していることが確認ができる。						
		□	□	材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。						
		□	□	材料の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
	評価値	□	□	設備、機器の品質、機能及び性能が、成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
	%	□	□	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がないことが確認できる。						
	判断基準ﾗﾝｸ	□	□	設備全体としての運転性能が所定の能力を満足していることが確認できる。						
		□	□	完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備していることが確認できる。						
		□	□	完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備していることが確認できる。						
		□	□	設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を工場試験記録により確認できる。						
		□	□	設備全体についての取扱説明書を工夫していることが確認ができる。						
		□	□	完成図書（取扱説明書）で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を、明示していることが確認できる。						
		□	□	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認ができる。						
		□	□	その他（ ）						

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。

② 該当数を母数として、比率(%)で評価する。

③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数

④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はＣ評価とする。

●判断基準

※ 評価値が９０%以上・・・・・・・・・・ａ

※ 評価値が８０%以上９０%未満・・・・ａ’

※ 評価値が７０%以上８０%未満・・・・ｂ

※ 評価値が６０%以上７０%未満・・・・ｂ’

※ 評価値が６０%未満・・・・・・・・・ｃ

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２５ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	下水道工事（開削・推進・シールド工）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ．品質

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	品質管理が、設計図書に定められている仕様により、実施されていることが確認できる。
□	□	指定材料の品質が、製品証明書で確認できる。
□	□	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量、圧縮強度等の測定結果が確認できる。
□	□	管渠（管布設・推進・シールド）工において、屈曲や沈下が、出来形管理基準を満足していることが確認できる。
□	□	管渠におけるクラックや変形がなく、漏水箇所がないことが確認できる。
□	□	建設副産物の処理が、設計図書に定めれたとおり行われていることが確認できる。
□	□	管渠継手部及びマンホール連結部の目地の仕上げが、仕様どおり施工されていることが確認できる。
□	□	推進管の裏込め材料が、十分充填されている管理資料が確認できる。
□	□	マンホールの連結部において、止水シール及び止水ゴムの設置が、出来形管理基準を満足していることが確認できる。
□	□	マンホールにおける各部材に、クラックがなく、漏水もないことが確認できる。
□	□	マンホールの足掛金物と鉄蓋の設置が、仕様どおり施工されていることが確認できる。
□	□	インバートの表面仕上げが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	管渠施設内に土砂、モルタル、材料の断片等がなく、清掃されていることが確認できる。
□	□	掘削時の土留め方法及び推進時の掘削方法による施工において、周辺への影響が見られない状況が確認できる。
□	□	埋戻における締固め方法が適切で、沈下のない施工がされていることが確認できる。
□	□	舗装復旧における施工が、設計図書の仕様に従って実施されており、既設舗装との段差がない、仕上がり状態が確認できる。
□	□	道路施設付属物（縁石、防護柵、標識等）の復旧が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能		
	５０%以下	80%以下	80%を超える
９０%以上	a	a’	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c
６０%未満	b’	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２６ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	コンクリート二次製品工事 L型・U型側溝、ボックスカルバート、L型擁壁、ブロック積、縁石 等	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	構造物周辺の締固めを、設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	施工基面を、平滑に仕上げていることが確認できる。
□	□	指定材料の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	基礎工において、掘り過ぎがなく施工していることが確認できる。
□	□	施工にあたって、床堀箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。
□	□	埋め戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	有害なクラックがないことが確認できる。
□	□	埋め戻し工における締め固めが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	構造物の根入れが、設計図書の仕様に沿って実施されていることが確認できる。
□	□	コンクリート構造物に、きめ細かな管理を行っていることが確認できる。
□	□	製品の吊り込み及び据付け時において、常に十分な注意を払い施工していることが確認できる。
□	□	製品の継ぎ目処理が、適切に施工されていることが確認できる。
□	□	構造物の据付けにおいて、各ブロックの段差及び蛇行がないよう敷設していることが確認できる。
□	□	ブロック積工における設置（勾配等）が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	その他（ ）

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
	５０%以下	80%以下	80%を超える	
９０%以上	a	a’	b	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c	c
６０%未満	b’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２７-１ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	水道工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。					□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

Ⅱ. 品質

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

該当数	評価数	［評価対象項目］
□	□	材料（管材および弁筐等）の品質規格証明書が整備されている
□	□	管材の接合状況が確認できる。（継手チェックシート、写真）
□	□	コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。
□	□	布設ライン、土被りが確保され、埋設シート等も適正に行われていることが確認できる。
□	□	埋戻し等で、締固めが適切に行われ、沈下等が見られない。
□	□	建設副産物の処理が、設計図書に定めれたとおり行われていることが確認できる。
□	□	既設構造物周辺の締固め等の処理が適正に行われている。
□	□	管内洗浄が適切に行われていることが確認できる。
□	□	管渠等の水圧試験が適正に行われ、数値が確認できる。
□	□	給水管取付替図が整備され、かつ全取付替箇所の施工写真が整っている。
□	□	掘削時の土留め及び推進時の掘削による施工において、周辺への影響が見られない状況が確認できる。
□	□	竣工図が適切に作成されていることが確認できる。
□	□	弁室等内のバルブ、弁類、配管は適切に施工されている。
□	□	弁室等の鉄蓋はがたつきもなく、高さや仕上がりもよい。
□	□	弁室等内に土砂、モルタル、材料の断片等がなく清掃されている。
□	□	弁室等の各部材にクラックや損傷がない。
□	□	路盤・舗装等の復旧が、仕様書に基づき適切に施工されている。
□	□	その他（ ）

●判断基準

評価値	ばらつきで判断可能		
	５０%以下	80%以下	80%を超える
９０%以上	a	a’	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c
６０%未満	b’	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当項目数を母数として、計算した比率(%)の値で評価する。
③ 評価値(%)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はｃ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-○○○
2.工 事 名 ： ○○○○工事（※工事名）

3-２７-２ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種			a	a’	b	b’	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	上記以外の工事 又は 合併工事		対象工事がばらつきによる評価が不適切な工事 <A>	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
			対象工事がばらつきによる評価が適切な工事 <B>	a	a’	b	b’	c		
				品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況から(評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ※ ばらつきの判断は別図参照。						

該当数 / 評価数 ［評価対象項目］

□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：
□ □ 理由：

評価値
%

判断基準ﾗﾝｸ

●判断基準

<A>：対象工事がばらつきによる評価が不適切な工事
※ 評価値が９０%以上・・・・・・・・・・a
※ 評価値が８０%以上９０%未満・・・・a’
※ 評価値が７０%以上８０%未満・・・・b
※ 評価値が６０%以上７０%未満・・・・b’
※ 評価値が６０%未満・・・・・・・・・・c

①当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
②該当数を母数として、比率(%)で評価する。
③評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はＣ評価とする。

<B>：対象工事がばらつきによる評価が適切な工事

評価値	ばらつきで判断可能		
	５０%以下	80%以下	80%を超える
９０%以上	a	a’	b
７５%以上９０%未満	a’	b	b’
６０%以上７５%未満	b	b’	c
６０%未満	b’	c	c

① 当該「評価対象項目」のうち、該当する項目の□をクリックする。
② 該当数を母数として、比率(%)で評価する。
③ 評価値（ %)=( )評価数/( )該当数
④ なお、評価対象項目数が２項目以下の場合はＣ評価とする。

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-２８ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	コンクリート構造物 砂防構造物工事 トンネル工事	【評価対象項目】 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	
	土工事 （盛土・築堤工事等）	【評価対象項目】 □ 仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 天端及び端部仕上げが良い。 □ 構造物へのすりつけ等が良い。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d	
	切土工事	【評価対象項目】 □ 規定された勾配が確保されている。 □ 切土法面の施工にあたって、法面の浮き石が除去されているなど、適切に施工されている。 □ 法面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されている。 □ 滞水などによる施工面の損傷が発生しないよう処理が行われている。 □ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。 □ 全体的な美観が良い。			●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）
［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

３－２９ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	護岸・根固・水制工事	【評価対象項目】 □通りがよい。 □材料のかみ合わせがよい、またはクラックがない。 □天端及び端部の仕上げがよい。 □既設構造物とのすりつけがよい。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当４項目以上・・・・a 該当３項目・・・・・・b 該当２項目・・・・・・c 該当１項目以下・・・・d	
	鋼橋工事	【評価対象項目】 □表面に補修箇所がない。 □部材表面に傷及び錆がない。 □溶接に均一性がある。 □塗装に均一性がある。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d	
	地すべり防止工事	【評価対象項目】 □地山との取り合いが良い。 □天端及び端部の仕上げがよい。 □施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d	

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-３０ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
Ⅲ. 出来ばえ	舗装工事	【評価対象項目】 □舗装の平坦性が良い。 □構造物の通りが良い。 □端部処理が良い。 □構造物へのすりつけ等が良い。 □雨水処理が良い。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	
	法面工事	【評価対象項目】 □通りが良い。 □植生、吹付等の状態が均一である。 □端部処理が良い。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d	
	落石防護工事	【評価対象項目】 □地山との取り合いが良い。 □天端及び端部の仕上げが良い。 □施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d	

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-３１ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	基礎工工事 （地盤改良等を含	【評価対象項目】 □ 土工関係の仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 端部及び天端の仕上げが良い。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ※地盤改良は、Ｃ評価とする。		●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d	
	コンクリート橋上部工事 （ＰＣ及びＲＣを対象）	【評価対象項目】 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端及び端部仕上げが良い。 □ 支承部の仕上げが良い。 □ クラックがない。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	
	塗装工事 （工場塗装を除く）	【評価対象項目】 □ 塗装の均一性が良い。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所がない。 □ ケレンの施工状況が良好である。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d	

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-32 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
Ⅲ. 出来ばえ	植栽工事	【評価対象項目】 □樹木の活着状況が良い。 □支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 □支柱の取り付けが堅固である。 □全体的な美観が良い。 □		●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d	
	防護柵（網）工事	【評価対象項目】 □通りが良い。 □端部処理が良い。 □部材表面に傷及び錆がない。 □既設構造物等とのすりつけが良い。 □きめ細やかに施工がなされている。 □全体的な美観が良い。 □		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	
	標識工事	【評価対象項目】 □設置位置に配慮がある。 □標識の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。 □標識板の支柱に変色がない。 □支柱基礎が入念に埋め戻しされている。 □全体的な美観が良い。 □		●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d	

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-３３ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
Ⅲ. 出来ばえ	区画線工事	【評価対象項目】 □ 塗料の塗布が均一である。 □ 視認性が良い。 □ 接着状態が良い。 □ 施工前の清掃が入念に実施されている。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d	
	下水道工事	【評価対象項目】 □ 構造物の通りが良い。 □ 内空面に補修の箇所がない。 □ 内空面にクラック及び傷がない。 □ 漏水がない。 □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	
	コンクリート二次製品工事	【評価対象項目】 □ 土工の仕上げ及び通りが良い。 □ 二次製品構造物のきめ細かい施工がなされている。 □ 既設構造物等へのすりつけが良い。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 二次製品構造物の通りが良い。 □ 全体的な美観が良い。		●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d	

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-３４ （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
Ⅲ. 出来ばえ	電線共同溝工事	【評価対象項目】 □歩道及び車道の舗装(仮復旧舗装を含む）の勾配が適切で、有害な段差がなく、平坦性が確保されている。 □プレキャストコンクリートブロックの蓋に、ガタつきや不要な隙間が生じていない。 □施工管理記録などから、不可視部分の出来栄えの良さがうかがえる。 □全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d
	機械設備工事	【評価対象項目】 □主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 □きめ細かな施工がなされている。 □土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。 □溶接、塗装、組立等にあたって、細部にわたる配慮がなされている。 □全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d
	電気設備工事 照明設備工事 その他類似工事	【評価対象項目】 □きめ細かな施工がなされている。 □公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 □動作状態において、電気的及び機械的な異常がなく、総合的な機能及び運用性が良い。 □ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 □操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

3-35-1 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	維持修繕工事	【評価対象項目】 □ 小構造物等にも細心の注意が払われている。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 既設構造物とのすりつけが良い。 □ 全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当３項目以上・・・a 該当２項目・・・・・b 該当１項目・・・・・c 該当項目なし・・・・d
	通信設備工事 受変電設備工事 その他類似工事	【評価対象項目】 □ 主設備、関連設備等にきめ細かな施工がされている。 □ 公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常がなく、総合的な機能及び運用性が良い。 □ 当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。 □ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □ 全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当５項目以上・・・a 該当４項目・・・・・b 該当３項目・・・・・c 該当２項目以下・・・d
	水道工事	【評価対象項目】 □ 弁、消火栓等の設置状態が、器具類の操作にあたり、支障のない位置に配置されている。 □ 弁筐等の仕上げが良い。 □ 施工管理記録簿等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 舗装等の仕上がりもよく、既設路面及び蓋・構造物とのすりつけも良い。 □ 全体的な美観が良い。 □			●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d

考査項目別運用表(土木工事)

1.契約番号 ： 24-〇〇〇
2.工 事 名 ： 〇〇〇〇工事（※工事名）

3-35-2 （検査員）
年 月 日（※完成検査年月日）

［記入方法］該当する項目の□をクリックする。

考査項目	工種	a	b	c	d
3.出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	上記以外の工事又は合併工事 ☐	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		【評価対象項目】 ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ※ 該当工種からの評価対象項目を行う。 ただし、評価対象項目は最大５項目とする。			●判断基準 ※該当４項目以上・・・a 該当３項目・・・・・b 該当２項目・・・・・c 該当１項目以下・・・d

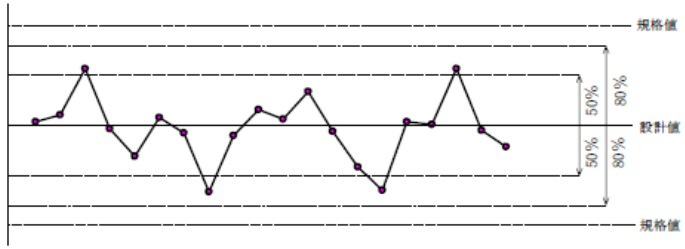
別図

出来形及び品質のばらつきの考え方

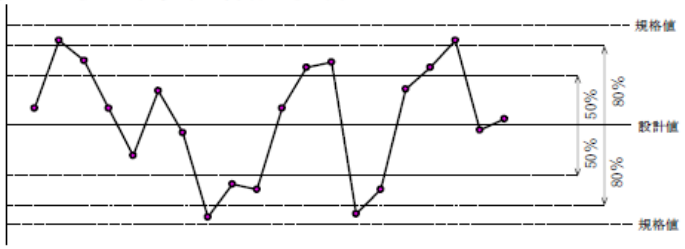
［管理図の場合］

（上・下限値がある場合）

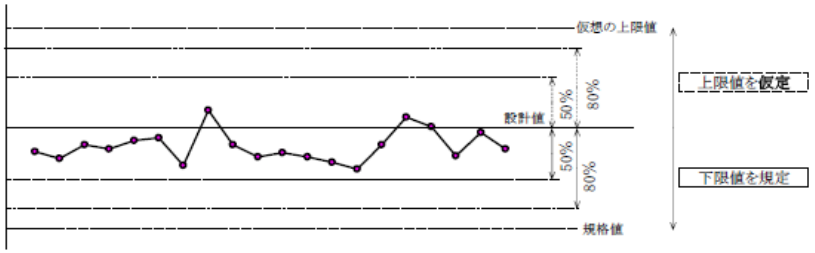
①ばらつきが50％以下と判断できる例



②ばらつきが80％以下と判断できる例

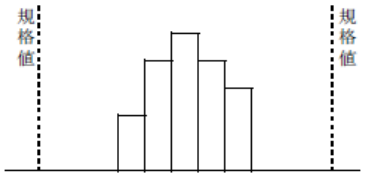


（下限値のみの場合）

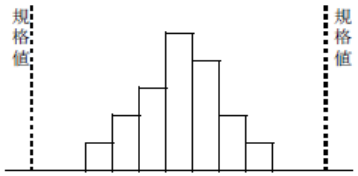


［度数表またはヒストグラムの場合］

ばらつきが小さい



ばらついている



ばらつきが大きい